

1 部門目標

収容不能率を入院依頼の20%未満に抑える。

2 業務体制・スタッフ

スタッフは長年、岩松利至、大塚春美、今井郁子、鈴木康浩、大橋美香の5名でありましたが、2020年4月より石黒利佳、7月より近藤丈太が新たに加わり、計7名の体制となりました。臨床心理士は藤嶋加奈に4月より本田淳子が加わり2名となりました（いずれも非常勤）。後期研修医としては、東京女子医大本院より田中理貴（2020年1月～6月）、森有以（2020年4月～9月）の2名、院内小児科より大関塁（2020年3月～9月）、奥田裕也（2020年4月～9月）、吉野忠恕（2020年9月～2021年3月）、および広瀬健陽（2019年10月～2021年3月）の4名が研修を行いました。院内初期研修医としては、弓立大、響田早弥香、および矢賀勇志の3名が短期の研修を行いました。また院内産婦人科より、佐藤美香が4か月の研修を行いました。

3 業務実績

1) 持続陽圧呼吸管理例の増加

2020年1月～12月の入院数は286名で、おおむね例年通りでした。うち院内出生は192名で全体の67%であり、やや例年より減少していました。出生体重別では、1000g未満が5名で前年の12名から半減、1000～1499gは23名でほぼ例年並みでした。死亡は1000g未満の1名のみであり、死亡率は0.3%でした。

気管内挿管での人工呼吸管理症例は26名で例年よりやや少なめでしたが、持続陽圧呼吸管理症例は112名であり前年に続いて100名を上回りました。これは、新生児の人工呼吸管理方針が、以前であれば挿管管理となっていた呼吸障害症例に対して、まず持続陽圧呼吸管理で対応するように変わってきており、この傾向が持続しているためと思われます。これに伴い持続陽圧呼吸管理専用呼吸器が不足することが多く、その都度レンタルで対応するという状況が続いております。

また2020年も、東京女子医大東医療センター新生児科長谷川久弥教授の往診による気管支鏡検査が行われ、新生児期発症の気道病変の管理向上に努めました。

2) 入院依頼（母体搬送依頼を含む）の82%に対応

院外からの入院依頼（産科への母体搬送依頼を含む）は232件ありました。うち、新生児入院の96件（直接入院94件、往診での新生児救急搬送入院2件）と、母体搬送等での対応94件の、合わせて190件（依頼の82%）に対応できました。

2020年 入院状況

作成： 2021/1/31

1) 総入院数 286 名

*院内 192 名 67.1%

*院内にて出生後、NICUもしくはGCUへ入院(再入院2名含)

出生体重	入院数	死亡数
～999g	5	1
1000～1499g	23	0
1500～2499g	121	0
2500g～	137	0
合計	286	1

在胎	入院数	死亡数
22～24週	0	0
25～27週	3	0
28～32週	32	1
33～36週	109	0
37週～	142	0
不明(未受診)	0	0
合計	286	1

3) 2019年の総入院数 (2020年前年比)

2019年	総入院数	250 名	(114.4%)
(前年比)	院内	174 名	(110.3%)

当院受診(非紹介)	14	*初診時より当院にてフォロー
母体搬送	62	
産科外来紹介	111	
未受診	3	
合計	190	

	使用人数	日数	平均/日数	平均/入院
人工呼吸器管理(IMV)	26	270	10.4日*①	9.1%
CPAP,DPAP	112	1257	11.2日*①	39.2%
サーファクタント	24			8.4%

*①(日数/使用人数)

*②(使用人数/総入院数)

2) 入院依頼(院外より) 232 件

*院外での出生児、出生後に当院NICUもしくはGCUへ入院

2019年	入院依頼	204 件	113.7%
(前年比)			

① 新生児科入院 96 件

41.4% (入院/入院依頼)

2019年	入院	76 名	(126.3%)
(前年比)	入院/入院依頼	37%	+ 4.1%

救急車	94	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って救急車にて当NICUに入院した症例
自家用車	0	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って自家用車にて当NICUに入院した症例
新生児救急搬送	2	*出産施設ですでに出生している重篤な児を当院新生児医師と看護師が救急車で迎えに行きNICUに搬送した症例
分娩立会+搬送	0	*新生児医師と看護師が救急車で出産施設に向き、分娩に立ち会ったうえでNICUに搬送した症例
三角搬送	0	*医師が救急車等で依頼元医療施設へ行き、新生児と同乗してほかの医療施設へ搬送した症例
合計	96	

② 他科収容・相談など 94 件

40.5% (他科収容・相談等/入院依頼)

2019年	他科収容・相談など	94 名	(100.0%)	2019,2020年同数値
(前年比)	他科収容・相談等/入院依頼	46.1%	-5.6%	

産科へ母体搬送	73
相談のみ	14
外来予約	4
入院予約	2
その他/小児科外来対応	1

③ 受入不可 42 件

11.2% (当院満床/入院依頼)

6.9% (その他/入院依頼)

2019年	受入不可	34 名	(123.5%)
(前年比)	当院満床/入院依頼	6.9%	
	その他/入院依頼	9.8%	

他院へ(当院満床)	26
(産科)	3
(新生児科)	23
(両科共に満床)	0
その他	16
産科緊急対応中	2
N重症児対応中	7
緊急近医へ誘導	4
レスピレーター余裕なし	1
母体発熱	1
コロナ感染妊婦入院中	1

4 1年間の総括

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他の診療科では入院数の減少が認められる中で新生児科の入院数は前年を上回っており影響を受けることはありませんでした。
しかし、その流行の増悪に伴って、当科でも面会の制限を余儀なくされました。
- ▶ 本年度は久しぶりに新たなスタッフが2名加わり、また例年通り当院小児科および東京女子医科大学本院小児科から、複数名の後期研修医の安定した派遣を受けることができ、診療体制が充実しました。
- ▶ 依頼の82%に対応でき、前年に続き収容不能率を20%未満に抑えることができました。
- ▶ 当院心臓血管外科の開設に伴い、未熟児動脈管開存症に対する動脈管結紮術を含めた先天性疾患に対する手術が開始されました。

5 今後の目標

今後も入院依頼の収容不能率を20%未満に抑える目標が継続できるよう、医師の確保・育成に力を注ぎたいと考えています。